

「わがまち再発見！」

シリーズ文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課

0920(54)2341

「旧金石城庭園」国指定名勝へ

国の文化審議会（阿刀田高会長）が、11月17日、厳原町今屋敷の旧金石城庭園を国指定の名勝とするよう文部科学省へ答申しました。今年度中には県内で3カ所目の名勝に指定される予定です。



心の字をかたどって見えるため名付けられた「心字池」

旧金石城庭園は史跡金石城跡の西方にあります。以前は埋め立てられ、庭石と一部が見えているだけでしたが、この地を知る人からは「心字池」と呼ばれて親しまれていました。

平成4年に旧厳原町教育委員会が城内の整備工事中に指定地北西部の櫓跡で石敷き遺構を発見したことをきっかけに、平成7年度に整備基本計画を立て、本格的に庭園として整備を進めることになりました。調査は平成9～16年度

までおこない、本格的な整備工事は平成14年度から継続しています。

庭園は1690～93年に藩主宗義真の命で中庭茂三によって造られたと考えられています。19世紀はじめ頃に作られた金石城の絵図に「泉水跡」としてその姿が描かれています。発掘調査によって実際の池を非常に良くあらわしていることが分かりました。絵図で描かれているのは池の形や水路の位置ですが、調査で次のようなことが明らかになりました。

池底は水漏れ防止のために粘土を何層も叩きしめながら重ねた版築という構造になっている。池底には玉砂利を敷きつめている。庭の北側にある導水路を使って池に水を導き、東側に排水路を作っている。

石英斑岩という白い石の風化土を一部で化粧のように塗っている。

池底に玉砂利を敷く、洲浜と呼ばれる庭づくりの技法は奈良、平安時代に流行しましたが、近世で採用している庭園は少なく貴重です。

屋敷があつた庭園の東から眺めると、万松院やその背後の山が借景となり、緑の山から大きな石を経て玉砂利に続き、水中に没していく様子が対馬の海岸を模しているように見えます。

このような地域の風土を生かした特徴あるつくりや、庭園としての美しさ、絵図と合致する考古学的な成果、対馬藩主の庭園という歴史的背景などから、全国的にも大変価値が高いと判断され、今回名勝として指定される運びとなったものです。

空き屋を登録しませんか？

対馬市空き家バンク制度

対馬市では、「空き家」を貸したい、売りたいと思っている方と対馬市で生活するために「空き家」を探している方との橋渡しをするために「対馬市空き家バンク」を創設いたしました。

空き家の登録を希望される方、対馬市外にお住まいの方で空き家情報をご覧になって住みたい物件がある方は、下記までご連絡ください。

空き家情報は、空き家の登録があり次第、情報提供を開始いたします。内容は、対馬市ホームページにも掲載してあります。(http://www.city.tsushima.nagasaki.jp)

問い合わせ先

対馬市役所 政策企画課

担当者 扇・梅野・中庭

0920(53)6111 FAX0920(53)6112

E mail:kikakuka@city tsushima.jp

対馬市空き家バンク制度イメージ図

